

# もみじ

Vol. 13



県立広島病院

〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号  
TEL (082) 254-1818(代) FAX (082) 253-8274  
ホームページ <http://www.hph.pref.hiroshima.jp/>

(財)日本医療機能評価機構認定病院 認定第JC175号一般病院



**理念** 県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

**基本方針**

1. 患者様の権利を尊重し、真心のこもった医療を実践します。
2. 医療事故ゼロを目標として、患者様の安全対策に努めます。
3. 県の基幹病院として、21世紀の高度・先進医療を推進します。
4. 各医療機関と連携を強め、地域医療の充実向上に貢献します。
5. 健全な病院運営に努め、良質な医療サービスを提供します。

## ■生殖医療科の開設について

県立広島病院では、平成20年度に成育医療センターを開設する予定であり、その一環として、平成19年9月18日に生殖医療科が誕生しました。生殖医療科では不妊と不育の夫婦の診療を中心に行います。不妊とは、子供が欲しいにもかかわらず、結婚して2年以上にわたり妊娠しないことで、不育とは、妊娠はするが流産や死産を繰り返すことです。平成16年度の全国の不妊治療患者数（不育を除く）は約58万6000人で、人口比率で考えると、県内の患者数は約1万2000人と推定されています。

生殖医療科での診療は、体外受精・胚移植と生殖外科が車の両輪となります。生殖外科というのは耳慣れない言葉だと思いますが、不妊や不育の原因となっている病気に対する手術を意味します。例えば、子宮筋腫が妊娠の妨げになっている場合は、筋腫の部分だけを摘出して妊娠しやすくします。卵管が詰まっているために妊娠できない場合は、詰まっている部分を通過させるようにします。子宮筋腫のために子宮をすべて摘出したり、卵巣癌のために両側の卵巣を摘出する必要がある場合は、生殖医療科ではなく婦人科で手術を行います。

体外受精・胚移植は他の治療法では妊娠できない場合に行う先端治療で、卵子を体から取り出して精子と出会うことができるようにします。卵子と精子が出会ってひとつの細胞となることを受精といいます。受精して細胞分裂を始めた受精卵は胚といいますが、受精卵を数日間発育させ妊娠が可能となった胚は特殊なチューブを用いて子宮のなかにそっと戻します。卵子を取り出すことを採卵、胚を子宮に戻すことを胚移植といいます。卵子と精子が出会うだけでは受精できない場合は、顕微鏡を用いて卵子のなかに精子を注入する顕微授精を行います。採卵、顕微授精や胚のお世話、クリーンルームと呼ばれる手術室に似た特殊な部屋で、医師と胚培養士が協力して行います。胚培養士は採卵から胚移植を行うまでの胚のお世話を培養室で行う専門職で、生殖医療では必要不可欠なスタッフです。

生殖医療科の設備は、最高レベルの空気清浄度を実現した培養室、生殖医療専用データベース、取り違え防止のための受精卵管理システムなど全国的にも最先端の機器システムを実現しています。しかし、不妊治療は必ず治療が成功するとは限りません。不妊治療中は、夫婦ともに大変なストレスがかかります。生殖医療科では、気持ちが少しでもやすらぐように待合室は"みどり"を基調としたホスピタルアートで彩り、医師も看護スタッフもカウンセリングに力を入れ患者さんの気持ちにも心を配っています。



生殖医療科部長  
原 鐵晃

### 成育医療センター (平成20年度開設予定)



成育医療 | 妊娠・出生から小児、思春期を経て成人にいたるすべての成長過程の診療を、一元的・継続的に提供する先進的な医療。



生殖医療科待合室

## ● 当院は地域医療支援病院として承認されました！ ●

地域医療支援病院は、「地域における医療の確保のために必要な支援を行うこと」を目的に平成10年に創設されました。

当院は平成19年8月27日付で、広島県知事から地域医療支援病院の名称使用が承認され、現在、当院を含め広島県内7病院が承認されております。

現在の医療は地域内の病院や医院などが、それぞれの医療機関の特徴を活かし、役割・機能を分担して病気を治療していくという大きな流れにあります。病院完結型医療から地域完結型医療への転換が急速に進んでおり、地域完結型医療の質の確保に地域医療支援病院の役割が重要です。地域医療支援病院の承認を得るためには①一定以上の紹介患者様へ医療の提供と逆紹介②高額な医療機器や入院病床の共同使用③24時間体制の救急医療の提供④地域の医療従事者の医療知識向上のため生涯教育などの研修⑤施設は耐震など必要な構造の保有などが必要となっております。

当院は②～⑤の医療機器や病床の共同利用、救急医療、医療従事者の研修、施設の整備はできておりましたが、①の紹介率、逆紹介率の向上を求められていました。「かかりつけ医」の推進による紹介患者様の増加、当院での治療終了後は速やかに「かかりつけ医」へ逆紹介の推進、三次救急以外の一次二次救急患者様の積極的な受け入れなどを行ってきました。結果として平成18年度の実績で、患者紹介率は66.4%、逆紹介率は64.2%に上げることができ、8月の広島県医療審議会に申請し承認されました。

今後も県立広島病院は、地域の皆様の「かかりつけ医」の先生方と連携・協力し、より良質な医療を提供させていただきます。また住民の皆様を対象とした「地域健康フォーラム」を開催しており、第1回は平成19年1月に生活習慣病の予防、第2回は10月に在宅でのがん医療について講演会を開催しました。今後もこのフォーラムを定期的で開催しますので、地域の皆様の健康や診療を受ける際の参考にしていただければと思います。なお、このフォーラムは、ホームページやポスターにてご案内します。



副院長(兼)健康推進センター長  
今川 勝



地域医療支援病院の認定要件でもある患者搬送車

当科ではペースメーカー植え込み術を受けられた患者様を対象とした専門外来を行っています。現在約300人の患者様が3～4カ月ごとに通院中です。

受診時には、心電図検査（毎回）、ペースメーカー簡易チェック（毎回）、胸部レントゲン検査（隔回）ならびに診察を行います。また手術後初めての受診時、および手術から5年以上経過した場合には、ペースメーカーのリード線の状態や残りの電池寿命などを詳しくみるためにペースメーカークリニックを行います。このクリニックは医師1～2名および看護師2名で診療業務を担当しています。なお、当病院以外で手術を受けられた方についても受診できます。



コントローラーを皮膚の上からペースメーカー植え込み部分に当て状態をチェックします。



ペースメーカー本体

**第2・第4木曜日 午後診療・完全予約制**

## ● 寄附・寄贈について ●

県立広島病院の運営につきましては、多くの方々のご支援・ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。おかげをもちまして、次のとおりご芳情をお寄せいただいております。これもひとえに皆様方の格別なるご高配の賜物と存じ、改めて厚くお礼申し上げます。

ご芳情を賜りました皆様のご芳名を次のとおり紹介させていただきます。寄附金及び寄贈品は、患者様のために有効に活用し、ご寄附の趣旨に沿いたいと存じます。

今後とも、当院の運営に引き続き、ご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



国際ソロプチミスト広島-中央様から、小児科病棟へ入院中の子ども達が少しでも快適に過ごせるようにと、書架、書籍等の寄贈を受けました。（平成19年9月20日）

### ◆寄附金をいただいた方々（平成18年12月～）

ご芳名	寄附年月日
株式会社西井製作所 様	平成19年 8月20日
三井雄彦 様	平成19年 1月11日
堀田民代 様	平成18年12月21日

### ◆寄贈品をいただいた方々（平成18年12月～）

ご芳名	寄贈品	寄贈年月日
国際ソロプチミスト広島-中央様	書架、書籍	平成19年9月20日
松本亮子 様	書籍	平成19年9月10日
ライフサイクルカルチャー クラブLC教養講座 様	書籍	平成19年6月21日
藤原隆雄 様	書籍	平成19年5月21日
石井浩子 様	書籍	平成19年5月12日
加藤紀子 様	書籍	平成19年4月24日
広島東ロータリークラブ 様	書籍	平成19年4月19日
株式会社ミュージズ 様	書籍	平成19年4月14日
佐々木 忍 様	書籍	平成19年4月11日
ひろしまもみじ押花会	押花絵（貸与）	平成19年3月23日
南波辰郎 様	書籍	平成19年1月25日 以降数回ご寄贈いただきました。

なお、この他にも多くの方々からご寄附・ご寄贈いただいておりますが、公表を了承いただいた方のみ掲載させていただいております。

# ● 難聴への対応 ●

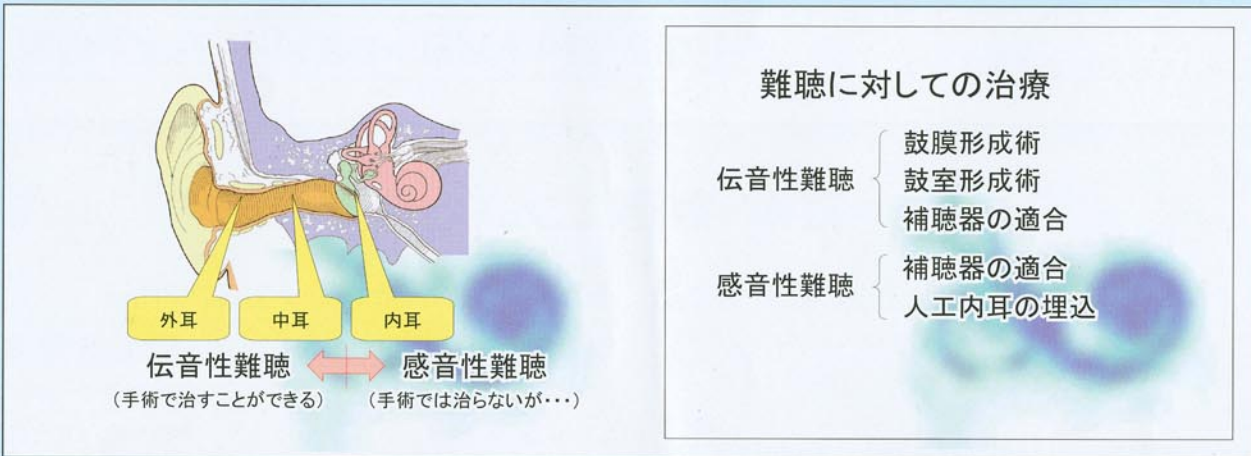
年をとれば誰でも大なり小なり聴力は低下します。でも、子どもの頃からとか若いうちから聴こえが悪いというのは何か原因があるはず。図に示すように難聴には外耳・中耳の音を伝える部分に問題がある場合（伝音性難聴）と音を感じる内耳に問題がある場合（感音性難聴）の二つに大きく分けられます。あなたがもし聴こえが悪いとすれば、まずどちらの難聴かを調べる必要があるでしょう（当科では二人の専任の言語聴覚士がこの検査を行っています）。



耳鼻咽喉科・頭頸部外科部長  
**福島典之**

伝音性難聴の場合には処置や手術で聴こえが改善する可能性があります。当科では鼓膜を再生したり中耳の音を伝える仕組みを作り直す手術（鼓膜形成術・鼓室形成術）を年間200件近く行っています（2005年は全国第9位の件数でした）。手術を行った全員の患者さんの聴力が改善するわけではありませんが、より多くの人に「より良い聴こえを」との思いで努力をしています。

一方で内耳に障害のある感音性難聴の場合には手術での改善は望めません。突然に生じた感音性難聴の場合には、薬物治療で改善することがありますが、多くの感音性難聴を改善するには補聴器が必要となります。補聴器でも聴こえがまったく得られないような高度の難聴に対しては、「人工内耳手術」があります。この手術は、小児感覚器科と耳鼻咽喉科の共同で今年から当院でも開始し、3名の子どもさんに行っています。聴こえが良くなることでより深いコミュニケーションが可能となり、いっそう明るく楽しく毎日を暮らすことができます。あきらめることなく、耳鼻咽喉科を受診してみてください。



## 意見箱

👁️ 家族待合室の長椅子のシートから中のクッションが出てきており、早急に新しいものと取り替えてほしい。

🟢 新品ではありませんが、状態のよいものと交換しました。

## 紹介状持参のお願い

初診で来院される際には、「紹介状」をご持参いただきますようお願いいたします。

・当院では、お近くのかかりつけ医の先生と連携し、専門的な検査や入院治療を行い、皆様のお役に立ちたいと考えております。

「紹介状」は、かかりつけ医と当院とを連携するものです。

事前にかかりつけ医からFAXによって診療予約をすることができます。

・紹介患者専用の受付を設置しております。

**お問い合わせ**：地域連携科(病診連携担当) TEL(082)252-6241 FAX(082)252-6240

## 診療科案内

- |             |         |              |            |
|-------------|---------|--------------|------------|
| 総合診療科       | 一般外科    | 小児感覚器科       | 歯科・口腔外科    |
| 消化器内科       | 胸部外科    | 小児科          | リハビリテーション科 |
| 呼吸器内科・リウマチ科 | 整形外科    | 小児外科         | 放射線科       |
| 内視鏡科        | 脳神経外科   | 小児腎臓科        | 麻酔集中治療科    |
| 内分泌・腎臓内科    | 皮膚科     | 産科           | (ペインクリニック) |
| 循環器内科       | 泌尿器科    | 婦人科          | 緩和ケア科      |
| 神経内科        | 眼科      | 新生児科         | 透析・移植外科    |
| 精神神経科       | 耳鼻いんこう科 | 生殖医療科        | 救命集中治療科    |
|             | 頭頸部外科   | (19.9.18 開設) | 臨床腫瘍科      |

## 外来時間

午前8時30分～午前11時00分

※午後の診療は診療科によって異なります。受付でおたずねください。

## 休日

土曜・日曜・祝祭日

年末年始 (12/29 ~1/3)



お願い：駐車場は午前中大変混み合います。できるだけ公共交通機関をご利用ください。